

2025（令和7）年4月24日

北海道新幹線の150mレールを貨物鉄道で初輸送しました

鉄道・運輸機構（以下「機構」）は、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）に敷設する長さ150mのレール28本を4月18日から4月21日にかけて貨物鉄道で初輸送しました。

今回の取組は、線路の品質向上、レール溶接における技術者不足及び工事工程の短縮、モーダルシフトに寄与するものと考えています。

引き続き、機構は安全に工事を進めるとともに、関係者と協力し、一日も早い開業に向け全力で取り組んでまいります。

1. 出発セレモニー

4月18日、福岡県北九州市八幡東区の貨物ヤード内にて、機構 渡邊鉄道技術センター長、日本貨物鉄道株式会社 但野執行役員九州支社長及び船津北九州貨物ターミナル駅長、日本製鉄株式会社 中西厚板・建材営業部長によりテープカットが行われ、駅長の合図とともに初列車が約2,100kmの旅に出発しました。



2. 到着セレモニー

4月21日、4日間の長旅を終えた初列車が、北海道山越郡長万部町の函館本線長万部駅ホームにて、長万部町 木幡正志町長、長万部町の住民の皆様、関係者の皆様に迎えられて到着しました。また、木幡町長より貨物列車の運転士に花束が贈呈されました。



翌22日には到着したレールを引込線に入れ、貨車から取り卸ろす作業を行いました。



後日、本輸送の全体を
まとめた動画を YouTube
に投稿する予定です

＜本件に関するお問合せ先＞

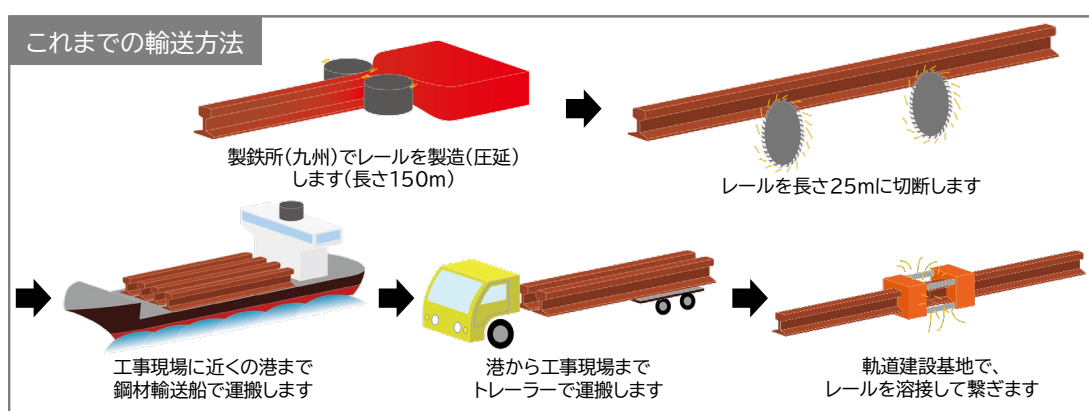
経営企画部 広報戦略課 樋口・鈴木

TEL 045-222-9101

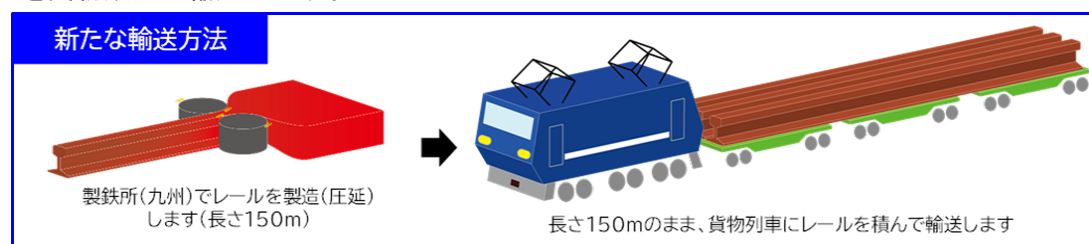
150mレール貨物鉄道輸送とは

- ・ 整備新幹線工事で使用するレールを長さ 150m のまま貨物鉄道で輸送すること、また、整備新幹線事業に限らず、青函トンネルを通過し、北海道に向けて 150m レールを貨物鉄道で輸送することは初めての取組みです。
- ・ 150m レールを使用することで、溶接作業が少なくなるため、工程短縮に寄与します。
- ・ レールの弱点である溶接部分が無くなることから、品質が向上します。
- ・ 製鉄所から工事現場まで、積み替えなく一貫して貨物鉄道輸送することで、モーダルシフトに寄与します。

整備新幹線に敷設するレールは、これまで、製鉄所において長さ 150m で製造した後、長すぎて積み卸しや輸送が困難であるため、長さ 25m に切断し、鋼材輸送船、トレーラーで軌道建設基地に輸送して、敷設現場において、再度、溶接していました。



長さ 150m のまま、レールを貨物列車に積載して輸送する方法が確立したこと、また、長万部駅は在来線と新幹線の工事現場が隣接しており、150m のレールを取り卸すことができることから、長さ 150m のレールを貨物鉄道で輸送します。



輸送経路(約 2,100km)